

迷惑施設広島大学

総合科学部 佐藤正樹

「いつだったか総合科学部の教授会で、広島大学は迷惑施設だという意味の発言をしたら、それはある意味で大切な意見だから「広大フォーラム」に寄稿してほしいというご依頼があって、私もそうかもしれないと思い、ここに一文を認めることになった。

広島大学が迷惑施設だなどと言うと、私が時代錯誤的移転反対派であると勘違いされそうだが、とんでもない。私は広島大学に赴任するとき愛知県の自宅を売り払い、その資金を元手に移転先の東広島に移り住み、移転を一日千秋の思いで、と言うと大袈裟だが、とにかく待ち望んでいる者だ。私は出不精だから、何度も引っ越しをするのはいやだ。それに家宝の書物が傷むだろう。だから私は山椒魚のようにじっと書齋に座り込み、大学がやって来るのを待っているというわけだ。

しかし、それだからこそ地元の人たちから見て、ということは私もその中に含まれるわけだが、移ってくる大学が、立派な、恥ずかしくない、後ろ指をさされなくて済むような大学であってもらいたいと心底望んでいるのだ。が、残念なことに、すでに移転を完了した学部に関して言うと、日々後ろ指をさされるみっともない大学の見すばらしい姿をさらしていると言わざるをえない。研究がどうのと言うのではない。研究のことは私には全然分からない。私が言っているのは、あのみっともない学生たちのことだ。

今や広島大学の学生は一種の公害である。よくもまあ、あれだけ人に迷惑をかけられるものだと呆れてしまう。深夜、けたたましいごう音を発してバイクを乗り回す。爆竹を鳴らす。花火大会をやる。アパートから女の子

が出て来るまで車のクラクションを鳴らす。でっかい声でお喋りする。これ、みんな深夜一時二時の本当の話。東広島は田舎だ（もっとも広島人が信じているほど田舎だとは思わないし、また逆に広島市も広島人が信じているほど都会とは思わないから、私はいつも学生諸君に、広島市と東広島市との違いは「東」の一字、つまり誤差の範囲内だと説明している）。とにかくここは田舎だから、夜は本当の夜になる。私たち研究職にある者にとってこれは絶好の思索の環境である。その静けさを今うち破っているのが、わが親愛なる教え子どもである。車の運転もひどいものだ。あれでよく自動車学校が合格を出したものだ。いつだったか、拙宅近くの道路のと真ん中に車を止めてアパートには行って行こうとするから呼び止めて、君、通れないから脇へどけてくれと言った時のあの学生のスゴンだ挑戦的な表情は、ああこわかった。まるで頬に傷ある人みたいだった。ほかの例を挙げよう。

近所でいちばん困っているのはゴミの始末だ。燃えるゴミとそうでないゴミとを分けて出すのは今どき常識だし、東広島の広報誌にもちゃんと書いてある。字が読めないのだろうか、それが全然守られない。近所の人たちがたまりかねて、アパートの部屋数だけ一枚一枚「ゴミの出し方にご注意ください、ここに出し方が書いてあります」と紙にお書きになって、各部屋に配られた。結果は以前と同じ。それどころかゴミを入れる小屋に入れないで外に放り出していくので、君、小屋に入れてくださいと注意すると、またぞろ恐ろしい顔をして、近所の人たちが材料を調達してこしらえた小屋の戸を乱暴に、それ見たことか

と言わんばかりに開けてゴミを放り込む、すると今度は戸を開けっぱなしにして行こうとするので、君、猫や鳥が荒らすから戸を閉めてくださいと言うと、三たび凄惨な形相をして戸を乱暴に閉めていく。

ゴミのことではほかにもある。なんと恥知らずなことよ、広島大学××部と大書したゴミ入り袋を、御丁寧なことに二つも坂の斜面に投げ捨てていく。私は広島大学に勤めているのが恥ずかしいよ。あの二袋、近所のお年寄りが斜面を降りて、中身を仕分けし、しかるべき方法で始末なされた。捨てた学生、深く恥じるがいい。

夜中にカー・ステレオをガンガン鳴らして帰って来る学生、君の聴覚は壊れているね。隣の家では市民が眠っていることを知らないのか。深夜花火大会をやる学生たち、うるさいぞ。それにマムシがうようよいるから、死ぬのは覚悟だろうね。女の子を誘うんなら、もっとデリケートにやり給え。知性の片りんもないね。車を運転する時は、自動車学校で習ったとおりにやれ。日曜日に住宅地でオートバイを乗り回すのはやめろ。それも何人かが交代で。危ないじゃないか。子供も遊んでいることくらい見れば分かるだろう。

こういう迷惑は私が住んでいる地域だけに固有の現象なのだろうか。たまたまここにだけ、間違っただけで大学生になったのが住むことになったのだろうか。東広島市の全域について調べたことはないし、そんな気も暇もない。ここだけの話なら、まあ不幸中の幸いというところかもしれないが、それにしても近所では大問題になっている。町内会のたびに議論の的になり、中には「広島大学の学生はこの地域に住ませないことにしたらどうか」といったセンセーショナルな発言も出て来る。私の手前、あまりひどい結論にはならないが、近所の人たちの私に対する思いやりに深く感謝しないではいられない。(男子学生でもちゃ

んと洗濯などしている姿は感動的ですからあるなどと学生を持ち上げて、町内会で小さくなっている私の立場を救ってくださる方もある。) 私たちの教え子である以上、私たちにも大いに責任があるのだから、本当は私も「お前たち、出て行け」と叫びたいのだが、これは天に向かって唾を吐きかけるようなもので、ああいう学生を入学させた、もしくはしつつけを怠った私たち自身の責任を不問に付することになる。

学生の迷惑が目にあまるので、近所のご老人がとうとう大学に電話をされた。学生課とかが電話に出たので事情を訴えたが、まともに取り合ってくれなかったと言って、広島大学というのは、なんとということだと私に抗議をされた。もしこれが事実なら由々しきことだ。新聞や広報誌を読むと、留学生と地元市民との交歓会だの学生街の建設計画だのと結構な記事が出ている。それに対して茶々を入れる気は毛頭ないが、もっと大切なことがあるだろうと言いたくなる。移転、大いに結構。しかし、原始林を開拓してそこに移転するのではない。ここにはそれこそ太古の時代から誇り高い人間が住み、生活を営んでいる。しかも広島県の県民性だろうか、愛郷心が強い。それは裏返せば「よそ者」を排除しようとする気風である。私のようなよその土地から来た者にはそれがひしひしと感じられる。それは、むろん長所でもあるし短所でもある。とにかく、そういう人間が立派に生きて生活しているその真ただ中に「よそ者」大学が引越すのだから、少々の摩擦は避けがたい。しかし、広島大学は東広島のみならず、店主や商店主だけで付き合うのではない。そして移転は施設だけでなく、人間もまた移転するという当たり前のことが忘れられている。広島大学は移転してあげるのだと思いがっている。とんでもない。顔を洗って出直すがいい。

目下、広島大学は迷惑施設である。